

栗島島民らが bon dance 踊り

芸術家村作家がアレンジ

三豊市詫間町の栗島にある「日々の笑学校」(旧栗島中学校)で26日夜、島で受け継がれてきた踊りをアレンジした「bon dance」を楽しむイベントが開かれた。会場は大勢の島民らでにぎわい、校庭に組まれたやぐらの回りに大きな踊りの輪が広がった。

イベントは、栗島芸術くくり付けた「財」と呼ぶ家村事業(市主催)の滞り続ける棒を両手で振りながら作家が創作活動の成果から船で参拝していた。展として同校で開催した少子高齢化などに伴い、「セルフ尊景」の一環として、現在行われていないとして、芸術家の菊地良太さん(36)千葉県出身が企画した。

踊りは、かつて神社の秋季大祭で奉納していた「宝来栄弥」が原型。島民は太鼓と手拍子に合わせて、先端に細長い布を



太鼓と歌に合わせて財を振る「bon dance」を楽しむ参加者。三豊市詫間町、日々の笑学校

菊地さんは、島民になり込み深い振り付けをベースにし、島民グループ「栗島ほろい・があゝるの山北友好さん(85)」と踊りの構想に着手。歌手の鳥羽一郎さんの「宝来船祭り」に合わせて、両手に持った約90センチの財を左右に振ったり、円を描くように回したりする「bon dance」を完成させた。

この日は島民約30人が集まり、力強い太鼓や歌に乗って踊りを満喫したほか、島を訪れていた台湾の留学生らも財を渡されると、笑顔で輪に加わった。また、30年ほど前まで島民運動会で踊られていた「栗島首頭」も披露され、会場は踊りの楽しさにあふれた。菊地さんは「島が盛り上がりつつあった。これからの滞在作家らにも踊り継いでもらえたらうれしい」と話した。

流しうどん、つかめたよ



丸亀城の見送り坂で「高速流しうどん」を楽しむ若者たち

夏のおもてなしイベント「丸亀城サマーフェス 家族連夕」(丸亀市観光協会主催)が27日、丸亀市一番丁の丸亀城で開かれた。楽しみ

直島で火まつり 花火2500発に歓声



直島町の夏の風物詩「直島の火まつり」が26日、同町のふるさと海の家「つつ

じ荘」をメインとした。夜空を花火大会やイベントがまらが夏のひとまで楽しんで火まつり。期に町が開港年で15回目。2千人が詰め込み、フラダンスや太鼓の演奏も盛り上げた。花火大会は船から約2メートル上げられ、

SCRAMBLE 讃岐

県警、交通事故防止へ2

県警が本年度から運用を開始した交通違反の特別取締部隊「与一」と、高齢者世帯の訪問を行う県警OBの「セーフティアドバイザー」。両事業

成果 共も

行中、並走していた1台の車に停止を求めた。車の運転手は携帯電話で通話していた。県警が4月に摘発した交通違反のうち、通話やスマートフォンの使用を禁止し、歩行者に危険を生じさせるなど「歩行者